

読解力の向上をめざした NIE の実践

三股町立梶山小学校 教諭 菅原 幸一

I はじめに

(1) 学校の概要

本校は、今年度（令和5年度）、10月10日に開校150周年を迎えた、歴史と伝統のある学校である。また、三股町の中央部に位置し、梶山城跡や眼鏡橋などの文化財や美しい山々に囲まれた自然豊かな学校である。（資料1参照）全校児童は、75名（令和6年2月現在）で、三股町の特認校制度により三股町全域が通学区域となっている。



【資料1】梶山小学校（令和5年9月撮影）

(2) 研究主題と NIE

本校の課題の一つは、学力向上である。昨年度（令和4年度）の学力テストの結果を見ると、算数科に比べ、国語科の方が、全体的に定着率が低い傾向にあった。そのため、「読解力の育成」をめざして、以下の研究主題で、国語科の授業づくりと NIE の取組を中心に研究を進めていくことにした。

「主体的・対話的で深い学び」を実現する児童の育成
～「読解力」の育成をめざした国語科の授業づくりと NIE の取組を通して～

そのために、NIE に関しては、研究の視点を以下のとおり設定した。

研究の視点1 新聞に慣れ親しむ手立ての工夫
研究の視点2 新聞を活用した授業づくり

2 本年度の取組

(1) 新聞に慣れ親しむ手立ての工夫

ア 新聞コーナーの設置

今年度は、9月から12月の間に、毎日5社の新聞（宮崎日日新聞、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、日本経済新聞）が届くようにした。それらの新聞をいつでも手に取って読めるようにするために、



【資料2】5社の新聞を置いた新聞コーナー

新聞コーナーを設置した。（資料2参照）設置場所は、2階に2カ所（5年生教室付近と2年生教室付近）、1階に1カ所（職員室付近）である。5年生教室付近の新聞が一番新しいものとなるようにした。そして、2年生教室付近の新聞が前日のもの、職員室付近の新聞が前々日のものとなる。新聞を置くのは、委員会の児童が担当し、新聞を移動させていく仕組みをつくった。

イ バックナンバーコーナーの設置

過去の新聞をいつでも見たり、授業に活用したりできるように、バックナンバーコーナーを設置した。(資料3参照)5社の新聞をそれぞれ分けて置いていくようにした。委員会活動の時間を活用し、児童がコーナーの設置を行った。



【資料3】バックナンバーコーナー

ウ 宮日こども新聞の掲示

毎週土曜日に届く、宮日こども新聞の掲示を行った。2階の廊下に3カ所掲示した。また、理科室内にも掲示を行った。

そして廊下には、宮日こども新聞の様々な記事を掲示するようにした。理科室内には、理科の問題など、理科に関する記事を掲示するようにした。

エ 朝の NIE タイムの創設

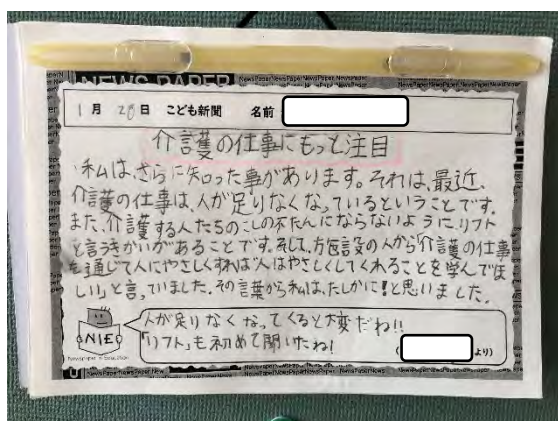
新聞が届き始めた9月より、毎週木曜日の朝の時間を、NIE タイムとした。朝の NIE タイムは10分間しかないが、ここで全学年確実に新聞にふれることができる時間を設定した。この NIE タイムの中では、各学年部で以下のような取組を行った。

学年部	取組内容	説明
低学年部	・宮日こども新聞を読む。 ・投稿活動を行う。	・好きな写真を選ぶ。 ・「大喜利」や「詩」の投稿を行う。
中学年部	・宮日こども新聞を読む。 ・投稿活動を行う。	・好きな記事を読む。 ・「大喜利」や「詩」の投稿を行う。
高学年部	・見出し当てクイズを行う。 ・宮日こども新聞の記事に対して感想を書く。 ・宮日新聞の記事に対して自分の考えを書く。 ・新聞スクラップを行う。 ・投稿活動を行う。	・記事を読んで見出しを当てる。 ・記事を選び、感想を書く。 ・記事を選び、自分の考えを書く。 ・好きなテーマで記事を集める。 ・「若い目」の投稿を行う。

ここでは、特に高学年部の「宮日こども新聞の記事に対して感想を書く」と「宮日新聞の記事に対して自分の考えを書く」について紹介していく。

(ア) 宮日こども新聞の記事に対して感想を書く(5年生での取組)

活動の流れを説明する。まず、宮日こども新聞を一人一部配付する。(販売所の協力で一人一部届けていただいた)次に、自分が気になった記事を選び、ワークシートに感想を書く。その際、見出しを必ず書くようにする。そして、初めて知ったことや考えたことを書くようにする。(資料4参照)感想を書いた後は、ワークシートをペアで交換し、下部に友達の感想を読んで思ったことなど、コメントを記入する。最後は、廊下の掲示板を活用し、NIE コーナーを作成し、児童自ら掲示を行っていく。(資料5参照)

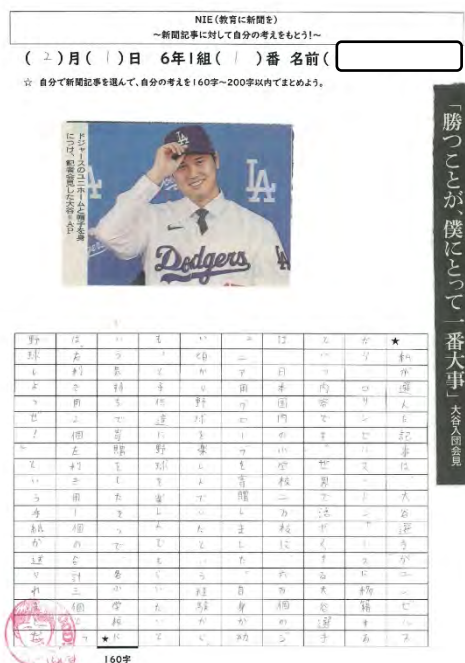


(イ) 宮日新聞の記事に対して自分の考えを書く(6年生での取組)

活動の流れを説明する。まず、宮日新聞を一人一部配付する。次に、自分が気になった記事を選び、ワークシートに記事を貼る。そして、その記事に対する自分の考えを書く。（資料6・7参照）自分の考えは、字数制限を設けて、160字以上200字以内で書くようにした。はじめは、NIE タイムの10分間で書き終わらなかったが、現在はほとんどの児童が書き終わるようになった。最後は、廊下に NIE コーナーを作成し、掲示するようにした。

才 投稿活動

宮日新聞の「若い目」の作文や、宮日こども新聞の大喜利コーナー、詩の投稿コーナーへの投稿活動を継続してきた。これまで多くの児童が掲載された。掲載後は、校長による掲示を行い、児童の新聞掲載掲示板が作成された。（資料8参照）



(2) 新聞を活用した授業づくり

新聞を活用した授業づくりについては、主に上学年(4～6年生)で取り組んだ。共通した取組としては、新聞製作学習を行った。4年生では、国語科において、「沖水川での水質調査」に関する壁新聞を制作した。5年生では、総合的な学習の時間において、「高齢者体験などの福祉」に関する壁新聞を制作した。6年生では、総合的な学習の時間において、「梶山の歴史」に関する壁新聞を制作した。

また、国語科の「読むこと」においても新聞を活用した学習を行った。ここでは、主に高学年の2つの実践を紹介する。

ア 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう「たずねびと」(5年生での実践)

「たずねびと」は、戦争を大きなテーマとする文学的文章である。この単元では、戦争について興味関心をもたせるため、単元の導入で、戦争に関する記事を探す活動を行った。(資料9参照)記事を見つけた後は、同じ記事を探した児童同士で、感じたことを伝え合った。そして、見つけた記事は、切り抜き、教室後方に掲示しておき、学習中はいつでも見るができるようにした。



【資料9】戦争に関する記事を探している様子

イ 筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう「メディアと人間社会」(6年生での実践)

「メディアと人間社会」は、メディアとの付き合い方について、筆者が考えを述べている説明的文章である。この単元では、教科書掲載の2つの説明的文章をもとに、筆者の考えを読み取った後、言語活動として、社会と生き方に関する記事を選び、その記事をもとに、社会で生きる上で大切なことなどの、自分の考えをまとめる活動を行った。(資料10参照)



【資料10】記事を選んでいる様子

3 成果と課題

(1) 成果

- 新聞コーナーを設置したり新聞を掲示したりすることで、児童自ら新聞を読む姿が見られるようになった。
- 朝のNIEタイムの中で、無理なく継続して新聞を活用していくことで、抵抗なく新聞を読む児童が多くなった。また、新聞記事を通して、世の中の出来事に関心をもつ児童が増えた。
- 新聞記事に対して感想や自分の考えを書くことを継続することで、「読む力」や「書く力」の育成につながった。CRTテストでは、国語科において、ほとんどの学年で全国平均を上回り、「読解力」の向上が見られた。

(2) 課題

今後も、発達段階に応じた、児童も教師も楽しく、無理なく継続できる取組を実践していく必要がある。